

科目名	環境と人間 Environment and Human Society			担当教員	田嶋 真一		
学年	全学科４・５年	学期	前期集中	履修条件	選択	単位数	1
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	13235030	単位区別	履修
学習目標	環境科学は広い分野にまたがる総合的な学問で、調和の取れたよい環境とは何かを迫及する学問である。気圏、水圏、地圏、生物圏の4つの圏からなる地球システムでの物質循環に基づいて、人間活動に起因するさまざまな環境問題を理解する。具体的には地球環境問題の現状、原因、影響、対策、とくに地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨のメカニズムについて理解を深める。また、国内における大気汚染、水質汚染、土壌汚染の現状、発生メカニズム、影響、対応策について学び、さまざまな化学物質による環境汚染問題を理解する。成長の持続と環境の保全との綱引きのなかで、科学技術がもつ可能性と限界を理解し、人間と環境との相互作用についてよく考え、良識ある環境評価ができるようにする。						
進め方	教科書に沿った講義を行う。 期間中6回程度の小テストと、3, 4回程度のレポート提出を課す。 事前レポート:「大気循環」、「コリオリの力」について、2通のレポートを作成し、第1日の授業開始時に提出すること。(A4レポート用紙使用のこと)						
履修要件							
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 人間と環境 (4) (1) 人間活動と環境 (2) 環境悪化をもたらす要因 (3) 公害から環境問題へ 2. 地球規模の環境問題 (6) (1) 地球の温暖化 (2) オゾン層の破壊 (3) 酸性雨 (4) 海洋汚染 3. 国内の環境問題 (6) (1) 大気汚染 (2) 水質汚染 (3) 廃棄物問題 (4) ダイオキシン類の発生 4. 環境中における汚染物質の運命(6) (1) 自浄作用 (2) 微生物と人口有機化合物 (3) 農薬 (4) 有機塩素化合物 5. 環境汚染物質の生体への影響 (4) (1) 環境汚染物質の生体濃縮 (2) 微量元素 (3) 化学物質の毒性評価法 6. 環境保全 (4) (1) 廃棄物処理 (2) 環境浄化とバイオテクノロジー (3) 環境教育・環境学習			地球環境での物質循環に基づいて、人間活動の環境への影響について知る。 A3:1,A3:3,D3:1 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨について、その原因物質とメカニズムについて知る。 A3:1,A3:3,D3:1 国内における化学物質による環境汚染を食物連鎖を含む化学物質の循環を通して考えることができる。 A3:1,A3:3,D3:1 多種多様な汚染物質の環境中への負荷や生体への影響について知る。 A3:1,A3:3,D3:1 自然との共生の視点から、成長の持続と環境の保全とのトレードオフのなかで豊かさを追求する姿勢を身につける。 A1:2,D3:1			
評価方法	小テスト・授業中の演習を50%, レポートを50%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書: 川合 真一郎, 山本 義和著 「第3版明日の環境と人間 地球を守る科学の知恵」 化学同人						
備考	授業中はA4レポート用紙を持参すること。わからないことは、授業中適宜質問すること。放課後は、E-mail[tashima@es.kagawa-nct.ac.jp]で予約することが望ましい。						